調布「ホタルの里」構想３

2020 年 4 月 2 日
野川で遊ぶまちづくりの会
代表　尾辻　義和

深大寺・佐須地域環境保全計画の事業化がスタートするにあたり、調布「ホタルの里」構想を提案します。

江戸時代にすでに深大寺のホタルは有名であった（1827 年刊行の「江戸名所花暦」）との記述があるようですが、残念ながら、今では深大寺にはホタルは飛んでいません。数年前に民間のグループによる移植が行われたようですが、その名残が飛んでいるようです。

今の野草園にいたホタルも廃棄物の不法投棄で全滅したために、市役所によるホタル飼育が始まったと聞いています。このホタルの飼育も種の保存という観点では、見直しをする必要があるでしょうが、すでに農場にいるホタルと混ざってしまったことも否定できず、純粋に昔からの種の保存については農場にも外部からの移植があったとのことなのであきらめざるを得ない状況です。

以下の計画で大切なことは、ホタルの物理的な移動はしないという点です。ホタルが生息できる良質な環境を再現することでかつての状態に戻すというのがねらいです。深大寺までたどり着くのは 10 年から 15 年くらいでしょうか。

かつての深大寺のホタルと、農場のホタルが遺伝子的に一緒であった可能性は高いため、その証明ができるようであれば、農場のホタルを深大寺に移植する方法もあり得ます。

１．　基本的には都立農業高校神代農場のゲンジボタル、ヘイケボタル、カワニナの増殖を図り、それらの生息域を拡張する形で用水下流域への増殖を図ります。

２．　第 1 期計画
農場の環境を整備し、農場内での増殖を図ります。あわせて農場からの野川までの用水路の延長（柏野小学校を含む）に自然発生する環境を整えます。

３．　第 2 期計画
深大寺の湧水源からの水路を整備し、カワニナの繁殖を推進します。柏野小学校で深大寺からの用水路と佐須用水を合流させ、深大寺までの用水路沿い（東京都の水性植物園を含む）に自然発生させます。

４．　第 3 期計画
市内の旧水路を再生し、その水路に自然発生させます。

５．　第 4 期計画
野川沿いに繁殖させます。

上記の第 1 期計画は、佐須用水の存在を知った直後から考えていたもので、基本的には昔の状態に戻すという発想です。

第 2 期計画については、深大寺・佐須地域環境保全計画が深大寺を含んでいることと、佐須の里山環境と深大寺の成り立ちが密接に関連していることを踏まえての提案です。

第 3 期計画については、都市のヒートアイランドを抑制するための旧水路網の再生を前提にした提案です。本構想を改定するにあたり、追加しました。

以上